

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：14401

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K21612

研究課題名（和文）ASD（自閉症スペクトラム障害）の病理学知見を用いた哲学的構想力概念の再構築

研究課題名（英文）Rebuilding the philosophical concepts of imagination from the pathological perception of autistic spectrum disorder

研究代表者

野尻 英一（NOJIRI, Eiichi）

大阪大学・大学院人間科学研究科・准教授

研究者番号：30308233

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000 円

研究成果の概要（和文）：ASDの病理学知見を用いた哲学的構想力概念の再構築を主題に11回の研究会を開催し、分野を横断しての活発な知見の交換と議論を行った。一般公開イベント「自閉症学超会議!」、学会共催イベント「精神分析と哲学の悩ましい関係パネルディスカッション」、「ヘーゲルと精神分析シンポジウム」を主催/共催し、学術分野における連携、一般社会へのアウトリーチ活動を展開した。野尻英一・高瀬堅吉による哲学と心理学の学際論文（<https://psyarxiv.com/h69cp>）が執筆された。他にプロジェクトメンバーによる業績は論文53本（査読付22本）、学会発表60件（招待講演25件、国際学会12件）、図書19冊に上る。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究プロジェクトは、人文社会科学系の研究者がASDを中心に発達障害という現象を哲学研究と接続する可能性、および哲学者が語学や専門性による分断状況を超えて、共通の話題のもとに新しい人間知の形成のために協力する可能性の実現を試みた。哲学分野において「構想力」という概念のもとに関係づけられてきた記憶と想像力について新たな学際的研究の端緒を開き、若手育成の場を実現し、社会学への展開も行った。萌芽段階にあった学術課題への気づきを育て学界および社会に拡散していくという目標を、四年間にわたる活発な研究会活動、論文出版、学会発表、書籍出版、学術イベントの開催により、申請時の設定を大きく超えて達成した。

研究成果の概要（英文）：Eleven research meetings were held on the subject of reconstructing the philosophical concept of imagination using pathological findings of ASD, and active exchange of knowledges and discussions were held across disciplines. The “Autism Studies Super-conference!”, “Panel Discussion on the Troubling Relationship between Psychoanalysis and Philosophy” and “Symposium on Hegel and Psychoanalysis” were held to promote collaboration in academic associations and outreach activities to the general public. An interdisciplinary paper in collaboration with philosophy and psychology by Eiichi NOJIRI and Kenkichi TAKASE was written (<https://psyarxiv.com/h69cp>). Other achievements by project members include 53 papers (22 refereed), 60 conference presentations (25 invited lectures, 12 international conferences), and 19 books. Directly inheriting the research products by the project, we won the Grant-in-Aid for Scientific Research B, “Elucidation of Slavoj Zizek’s Thought”.

研究分野：哲学、心理学、精神分析、精神病理学

キーワード：自閉症スペクトラム障害 構想力 社会性 想像界 障害学 ヘーゲル ラカン デリダ

1. 研究開始当初の背景

研究代表者(野尻)は博士論文ではヘーゲルにおける有機体論/生命論から「否定性」の概念を研究したが、博士論文を準備する2000年頃からASDに関する書籍を手取るようになり、特に当事者の手記が示す経験世界には強い印象を受けた。かつてドゥルーズ/ガタリや木村敏が統合失調症を参照することで人間精神の構造を立体的に浮かび上がらせたが、それ以上にASDにおける社会性、共感性の定型発達とは異なる様態、またそれと連動する知覚や記憶の様態には大きな示唆を受け、独自に研究を進めてきた。そこには定型発達の「構想力」や「否定性」の働きを逆照射する鏡があったと言える。

2014年より「哲学的自閉症研究会」を開始、2015年には「学際的自閉症研究会」へと接続し、人文社会科学系の研究者、当事者、学生も加えた研究会を主宰した。2018年度大阪大学に移籍後は学内助成金を得て「自閉症学共創思考サロン」へと発展させ、理系研究者、社会学連携メンバーとして企業における障害者雇用担当者、社団法人・NPO法人における障害者支援に関わる人材を加え、四〇名を超える規模での協力者人脈を形成した。

こうした研究会において多分野からの知見を交換し、議論を重ねるうちに判明したのは他分野および社会から哲学者の知見が求められていることだった。普通/異常の対照性の構図から見たとき、哲学の歴史において蓄積されてきた人間についての洞察や知見は、いわば「定型発達の当事者研究」である。つまり「普通」とされる人が「異常」とされるものとの対比において「普通」とは何かを知ること、それもまた一つの「異常」として把握する地点に至ることである。「定型発達の当事者研究」としての構造を自覚することによって、哲学研究は全面的に更新されることを確信し、本研究構想の発案に至った。

2. 研究の目的

本研究は、近年自然科学分野において研究が進み、社会的にも関心が高まるASD(自閉症スペクトラム障害)の病理学が急速に明らかにしつつある人間の知覚、想像力、記憶についての知見を、伝統的な哲学研究における概念や理論と突き合わせることで、学際的な相互作用による新しい総合人間科学分野形成のための基盤構築を目指した。

研究代表者(野尻)は従来から、ASDの病理を参照することによって、いわゆる定型発達(普通の健常者のこと)の精神構造が反照的に浮かび上がり、立体的な構造として把握される面に注目してきた。伝統的な哲学、人類学、心理学が構築してきた概念や理論を、精神障害の病理学をもとに捉え直す課題が生じてきているが、申請時点においてこの分野への哲学からのアプローチは、海外および国内のいずれにおいても萌芽の段階であった。

以上のような問題意識、目的意識のもと、本研究プロジェクトでは、野尻のこれまでの専門的および学際的研究、産社会学連携研究の経歴を背景としながら、その成果をもう一度、哲学研究者による小規模で緊密な共同研究の場にフィードバックし、古典的な哲学研究を新たな視点で再構成することを試みた。具体的には、特にASDが示す知覚、記憶、想像力の特異性と社会的コミュニケーション能力の障害特性に注目し、これらが古典的哲学における「構想力」についての知見にもたらす概念再構築の可能性を明らかにし、哲学と異分野、社会との接続の新しいかたちへ向けた一歩となることを目的とし、開始した。

3. 研究の方法

研究方法は、(1)資料データベース構築、(2)研究協力者による「構想力と精神病理学研究会」の開催の二点とした。

(1)西欧の近世哲学から現代思想における人間の精神構造、知覚、想像力と記憶(構想力)に関する概念と理論の変遷のアウトラインを把握するために、文献から構想力に関する情報を収集し、データベースを構築する。構築したデータベースは、研究協力者間で共有し、研究会のための資料として利用する。

(2)研究協力者による研究会を年間3回程度開催し、知見を交換し、人脈を形成することで、精神障害の病理学と哲学研究との接点を作る。研究会は「構想力と精神病理学研究会」と呼称する予定で、中心となるのは野尻英一(大阪大学人間科学研究科)と三重野清顕(東洋大学文学部)である。野尻はドイツ近代哲学、社会理論、精神分析を手がけており、三重野はドイツ近代哲学における形而上学、構想力論、時間論を手がけている。この二名を軸に、西欧哲学を研究する大学院生、ポスドクから構想力論に関心をもつメンバーを集める。

申請時に、研究会のレギュラー・メンバーとしてすでに内諾を得ていたのは、小川歩人(大阪大学人間科学研究科・共生の人間学講座D3)、辰己一輝(同・共生の人間学講座M1)、片倉悠輔(パリ第八大学哲学部博士課程)の三名であった。これら若手と、それぞれの研究テーマであるドイツ観念論における構想力論の変遷、ドゥルーズの論じるカントの構想力論、デリダの論じるヘーゲルの構想力論、シュテルナーによるアナーキズム的構想力論などのトピックで発表と議論を行なうことを計画した。さらに野尻がこれまでの経歴において形成した、精神病理学、学際的自閉症研究、産社会学連携活動からのASDについての知見を提供し、互いに知識、意見、議

論を交換しながら、伝統的、文献学的な哲学研究から挑戦的に離陸した、人間の想像力そのものについての哲学的知見の総点検と発展を試みた。

上記、積極的な若手との議論を核とし、ASD の病理学を媒体とした人間精神についての理論的、概念的、かつ挑戦的な探究の場を作ると同時に、野尻の学際研究、産学連携活動コネクションからのゲストも迎え、次期プロジェクト形成への布石も打つこととし、研究成果は、研究期間後半に学会等でパネルを構成し、発表する計画とした。

4. 研究成果

四年間にわたり、下記のような研究活動を展開した。

2019 年度は、年度内に予定通り三回の研究会を開催した(研究会の詳細は下記)。プロジェクトの主旨である哲学分野と精神病理学分野との連携および若手研究者間の連携が進み、研究会では活発な発表と議論が行なわれている。スターティング・メンバーに加え、ゲスト・メンバーの招聘も進んだ。特に東京精神分析サークルとの連携がない、精神病理学(ラカン研究)の若手研究者二名が加わったことは、人的ネットワーク形成の面で大きな成果だった。また精神科医一名も加わっている。研究データベース構築については専用機材導入および学生アルバイト雇用による体制を整え、8月より作業を開始、年度内に書籍 150 冊相当の資料をデータ化することができた。

- ・第1回研究会(大阪大学・吹田キャンパス)2019年10月5日(土)
野尻英一「未来の記憶 哲学の起源とヘーゲルの構想力についての断章」(2018)を土台に意見交換を行なった。報告者は三重野清顕と片倉悠輔。今後のプロジェクト予定について討論した。研究会後、懇親会を実施。
- ・第2回研究会(東洋大学・白山キャンパス)2019年11月2日(土)
小川歩人「デリダ『幾何学の起源』「序説」における「文学的対象の理念性」の在処」および「分散と組織化の界面としての身体 デリダにおける Leiblichkeit 解釈について」を土台に意見交換を行なった。活発な議論が行なわれた。研究会後、懇親会を実施。
- ・第3回研究会(大阪大学・吹田キャンパス)2020年1月11日(土)
池松辰男『ヘーゲル「主観的精神の哲学」』(晃洋書房)の第三章と第四章、および「市民社会における欲求と世界史における情熱 ヘーゲル「客観的精神の哲学」の動態をめぐって」を土台に意見交換を行なった。研究会後、懇親会を実施。

2020 年度は、年度内に申請時予定を超える四回の研究会を開催した(研究会の詳細は下記)。プロジェクトの主旨である哲学分野と精神病理学分野との連携および若手研究者間の連携がよりいっそう進み、研究会では活発な発表と議論が継続された。ゲスト・メンバーの参加はさらに進み、参加者は開始当初の7名から15名と倍増した。大きな出来事として、第7回研究会で自治医科大学・高瀬堅吉教授(心理学)を招聘し、実験心理学分野における想像力および自閉症についての研究状況をご報告いただき議論を行なったことが挙げられる。人文系と行動科学系という異分野科学間における対話が行なわれた。また株式会社ミネルヴァ書房の社員一名にオブザーバー参加を開始していただき、成果物出版に向けての動きを始めた。本プロジェクトの成果を生かした次期科研費プロジェクトへ向けた企画作りも進んだ。研究データベース構築については専用機材および学生アルバイトによる体制を維持し、年度内に書籍 50 冊相当の資料をデータ化することができた。コロナ渦による緊急事態宣言等の制限によりアルバイト稼働を確保できない期間があり、前年度と比較して作業ペースの低下があった。

- ・第4回研究会(Zoom)2020年4月11日
辰己一輝「ジル・ドゥルーズの哲学における「健康」と「病」の問題系 60年代の著作を中心に」参加者10名。
- ・第5回研究会(Zoom)2020年7月5日
片倉悠輔「19世紀末アナーキズム成立期における構想力についての試論」参加者13名。
- ・第6回研究会(Zoom)2020年11月7日
三重野清顕「イエナ期フィヒテの理論哲学における構想力論の基本構造」参加者12名。
- ・第7回研究会(Zoom)2021年1月9日
高瀬堅吉「学習・記憶の神経基盤と発達障害」、野尻英一「哲学理論における認知、記憶、共感:from Kant to Nojiri」参加者15名。

2021 年度は、申請時予定を超える四回の研究会を年度内に開催した(詳細は下記)。プロジェクトの主旨である哲学諸分野と精神病理学分野との連携および若手研究者間の連携はさらに進み、活発な発表と議論の交換が行われた。ゲスト・メンバーの招聘も進み、参加者は開始当初の7名から19名と大きく増加した。研究データベース構築については専用機材および学生アルバイトによる体制を維持し、資料のデータ化を順調に継続した。今年度最大の成果として、本研究会が企画主体となり「精神分析と哲学の悩ましい関係」パネルディスカッションを開催した。東京精神分析サークル/哲学の実験オープンラボ(大阪大学未来共創センター)/早稲田大学大学院文学研究科表象・メディア論コースとの共同主催によって開催し、申込者数146名と盛況であった。秋には、本プロジェクトを発展させて哲学と精神分析の融合であるスラヴォイ・ジジェクを思想を健康生成的に解明する次期プロジェクトを共同で計画し、科研費申請を行った。

- ・第8回研究会(オンライン開催・Zoom)4月10日(土)
中村徳仁「シェリングと後期ロマン派」、片岡一竹「二〇世紀フランスのヘーゲル哲学と

ラカン」参加者 19 名。

- ・第 9 回研究会(オンライン開催・Zoom)7 月 10 日(土)
小川歩人「デリダの観点からヘーゲル記号学/構想力の再検討」、辰己一輝「現代障害学における ASD の哲学的再検討:構想力、共感性との関連で」参加者 18 名。
- ・第 10 回研究会(オンライン開催・Zoom)11 月 13 日(土)
高橋一行「ヘーゲル所有論は無限判断論に基づき、そこから社会が構想される」、池松辰男「解体のあとに来るもの ヘーゲルによる Gewissen の解釈とその意味」参加者 19 名。
- ・第 11 回研究会(オンライン開催・Zoom)1 月 8 日(土)
片倉悠輔「大衆の構想力アナーキズムとフロイトの群衆論をめぐり」参加者 14 名。

本研究プロジェクトは、元来 2021 年度までのものであったが、コロナ禍により研究活動が様々な制約を受けたため、一年間の延長をお認めいただいた。通常の研究会活動は計画通り 2021 年度までで終了し、2022 年度は、三年間のプロジェクトにより蓄積された研究成果を公表し、さまざまな企画に載せて社会にアウトリーチしていくことが活動の中心となった。2022 年度に実現したイベント開催のうち特筆すべきものとしては、4 月の「自閉症学超会議!」と 6 月の「ヘーゲルと精神分析シンポジウム」(日本ヘーゲル学会と共催)が挙げられる。「自閉症学超会議!」は別資金(三菱財団社会福祉事業・研究助成)によるものだが、本プロジェクトの成果も接続、人的ネットワークをクロスするかたちで活かし、研究成果を社会実装する機会として開催することができた。大型メタバースイベントとして仮想空間上で開催され、8 日間にわたりのべ 500 名を超える参加者を得た。専門家、実践家、当事者とその関係者、一般参加者が集うオンラインコミュニティ空間を実現し、社会実装の大きな成果となった。メタバースを用いた大型公開学術イベントとして国内先駆例である。「ヘーゲルと精神分析シンポジウム」は、日本ヘーゲル学会のメインシンポジウムとして実現したもので、本研究プロジェクトの締めくくりとして、大きな成果となった。学会会員のみならず、外部からも 160 名を超える参加者を得て盛況となり、活発な議論が行われた。さらにプロジェクトによって築いた研究成果と発展させた人的ネットワークを直接的に継承し、基盤研究 B 科研費「スラヴォイ・ジジェク思想基盤の解明:ヘーゲル、ラカン解釈を中心に」を申請し獲得した。4 月より開始している。本プロジェクトの目的であった、フランス系思想とドイツ系思想の研究者の交流が理想的なかたちで実現し、両人材の交差点として現代最重要の思想家であるジジェクを解明する大型プロジェクトに結実した。

本プロジェクトにより生まれた直接の学術的成果としては、研究代表者である野尻とゲストメンバーの高瀬堅吉が 2021 年の第 7 回研究会をきっかけに共同執筆で論文執筆を行ったことが挙げられる。論文“Understanding Sensory-Motor Disorders in Autism Spectrum Disorders by Extending Hebbian Theory: Easy Formation of Rigid-Autonomous Phase Sequences (RAPS)”は、すでにプレプリントには登録している(<https://psyarxiv.com/h69cp>)が、米国の心理学一般分野のトップジャーナルに Conditional Accept されており、近日中の出版が見込まれる。実験心理学者と哲学者の共同による共著論文作成は近年国内では稀少となっており、出版されれば、学際的研究を目指した本プロジェクトの核心的な成果と言える。

さらに本研究プロジェクトは、野尻が媒介となることによって、野尻が同時期に研究分担者として参加していた新学術領域科研費による「和解学」プロジェクト(「和解学の創生」【計画研究】移行期正義論・紛争解決学を応用した東アジア歴史認識問題解決の思想基盤構築」17H06336)と連動した展開が生じ、研究成果の生産的な相互乗り入れがあったことは特筆に値する。従来、政治学や歴史学、国際交流分野における課題としてカテゴライズされてきた歴史認識、国民的アイデンティティ、国民間の和解等の問題に、本研究からは哲学および心理学からのパースペクティブ、すなわち ASD についての知見を媒介とした構想力(記憶と想像力)についての考察により、基礎理論面で貢献しうることが確認された。この学際的な成果は特に、野尻英一「記憶の器としての私、歴史の器としての国家を超えて:和解学のための詩学とマイクロポリティクスへ」『アポリアとしての和解と正義 [和解学叢書 2 = 思想・理論]』明石書店、2023 年)に結実している。

他にプロジェクトの参加メンバーによる業績は四年間の合計で論文 53 本(査読付 22 本)、学会発表 60 件(招待講演 25 件、国際学会 12 件)、図書 19 冊に上る。

本プロジェクト立案の背景には、研究代表者(野尻)が学際的および社会学連携プロジェクトの経験から、人文社会科学において蓄積されてきた人間性や社会性についての知見が自然科学、医学のみならず実業、民間活動、政策に接続され活かされる領域が開けていることの認識があった。先進国日本が精神障害を既定の事実として内包する成熟社会となるために、今後ますます必要となるソフトウェアとしての対応、すなわち総合人間科学的な知に基づく障害理解の促進を目指すための好機が訪れていた。こうした背景において、人文社会科学系の研究者が ASD という現象を自身の研究と接続できる可能性、また哲学者がドイツ系、フランス系、英米系と語学で職業が分かれてしまっているような分断状況を超えて、共通の話題のもとに知恵を絞り、新しい人間知の形成のために協力できる可能性を提起した。本研究プロジェクトは、萌芽段階にあったその気づきを育て、学界に拡散していくという目標を、上記の通り三年間の活発な研究活動と学術イベントの開催により、計画時点の設定を越えて達成することができた。以上により、挑戦的萌芽研究としての責務を果たしたと評価できる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計36件（うち査読付論文 16件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Eiichi NOJIRI	4. 巻 8
2. 論文標題 Memory and Dialectics : Critique of the Political Economy of Memory and Imagination, Part I	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Osaka Human Sciences	6. 最初と最後の頁 223-239
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 野尻 英一、Nojiri Eiichi、ノジリ エイチ	4. 巻 48
2. 論文標題 構想力と人間 : 記憶と想像力の政治経済学批判序説 2	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大阪大学大学院人間科学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 67-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18910/86862	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 野尻英一	4. 巻 22
2. 論文標題 記憶の器としての 私 、表象代理としての 私 について : あるいは記憶、自閉症、国家について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会理論研究	6. 最初と最後の頁 57-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 中村 徳仁	4. 巻 2021
2. 論文標題 シェアリングにおける「非体系性」と「自由」の思索	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 哲学	6. 最初と最後の頁 141-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11439/philosophy.2021.141	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 飯泉佑介	4. 巻 27
2. 論文標題 下田和宣著『宗教史の哲学：後期ヘーゲル迂回路』書評	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ヘーゲル哲学研究	6. 最初と最後の頁 135-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 客本敦成	4. 巻 48
2. 論文標題 ビエール・ブルデューの「界」概念と社会認識：方法論に注目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 九州教育学会研究紀要	6. 最初と最後の頁 17-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 辰己一輝	4. 巻 76(7)
2. 論文標題 クリップ・マッド・反社会性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福音と世界	6. 最初と最後の頁 24-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 辰己一輝	4. 巻 1176
2. 論文標題 「社会モデル」以後の現代障害学における「新たな関係の理論」の探究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 46-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三重野清顕	4. 巻 56
2. 論文標題 イェナ期フィヒテの理論哲学における構想力 その基本構造の解明の試み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 白山哲学	6. 最初と最後の頁 43-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤歴	4. 巻 1
2. 論文標題 「引き退き」はいかなる意味で実践的なのか ジャン・リュック＝ナンシーとフィリップ・ラクー＝ラバルトの提起をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 脱構築研究会オンラインジャーナル Supplements	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 マラブルー カトリーヌ、星野 太、佐藤 朋子、宮崎 裕助、小川 歩人、藤本 一勇、増田 一夫、鷓飼 哲、西山 雄二、渡名喜 庸哲、馬場 智一	4. 巻 1
2. 論文標題 共同討論「カトリーヌ・マラブルーの可塑性の哲学	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Limitrophe = リミトロフ	6. 最初と最後の頁 41-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川歩人	4. 巻 47(7)
2. 論文標題 ポストモダンという毒/薬あるいはサプリメントの略歴 今日、ジャック・デリダを支点として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 185-194
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川歩人	4. 巻 128
2. 論文標題 閉域に滞留し、歴史を展開するー松田智弘『弁証法、戦争、解説』に寄せてー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究紀要	6. 最初と最後の頁 3-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川歩人、森川勇大	4. 巻 16
2. 論文標題 (翻訳・解題)ヘンリー・ステータン「デリダ、デネット、自然主義の倫理・政治的プロジェクト」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 知のトポス	6. 最初と最後の頁 45-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一行	4. 巻 21
2. 論文標題 ジジエクをヘーゲル論理学の中に位置付ける	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会理論研究	6. 最初と最後の頁 59-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野尻英一	4. 巻 47
2. 論文標題 記憶と弁証法 : 記憶と想像力の政治経済学批判序説 <1>	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大阪大学大学院人間科学研究紀要	6. 最初と最後の頁 205-224
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18910/79076	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 池松辰男	4. 巻 26
2. 論文標題 意識の構造とその背後：現代实在論の課題とヘーゲル主観的精神／客観的精神の哲学の射程（シンポジウムI：ドイツ観念論と現代实在論）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ヘーゲル哲学研究	6. 最初と最後の頁 48-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村徳仁	4. 巻 28
2. 論文標題 政治思想家としてのシェリング その国家論を手掛かりに	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 シェリング年報	6. 最初と最後の頁 117-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村徳仁	4. 巻 1
2. 論文標題 1980年代西ドイツにおける〈主体〉をめぐるディスкурс フリードリヒ・キットラーとその周辺	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Medium	6. 最初と最後の頁 79-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤愛	4. 巻 第5章（分担執筆）
2. 論文標題 外見を気にしてはいけないのか？ ボディ・イメージと雰囲気フェミニスト現象学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 フェミニスト現象学入門：経験から「普通」を問い直す（ナカニシヤ出版）	6. 最初と最後の頁 48-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯泉佑介	4. 巻 134(807)
2. 論文標題 演繹と経験――イェナ時代初期のヘーゲルによるカント受容の一側面	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 哲学雑誌	6. 最初と最後の頁 123-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yusuke IIZUMI	4. 巻 2019(1)
2. 論文標題 System und Geschichtlichkeit: Ueber den Ort der sich werdenden Wissenschaft im Enzyklopaedie-System	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Hegel-Jahrbuch	6. 最初と最後の頁 403-410
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯泉佑介	4. 巻 26
2. 論文標題 【書評】嶺岸佑亮著『ヘーゲル 主体性の哲学： 自己であること の本質への問い』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ヘーゲル哲学研究	6. 最初と最後の頁 147-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤歴	4. 巻 5
2. 論文標題 ジャン=リュック・ナンシーの「政治的裁判権」について 「ヘーゲルの君主の裁判権」を読む	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 共生学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 22-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 辰巳一輝	4. 巻 5
2. 論文標題 2000年代以降の障害学における理論点展開／転回 「言葉」と「物」、あるいは「理論」と「実践」の狭間」で	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 共生学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 22-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一行	4. 巻 21
2. 論文標題 ジジェクをヘーゲル論理学の中に位置付ける	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会理論研究	6. 最初と最後の頁 59-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三重野清顕	4. 巻 別冊14
2. 論文標題 和辻哲郎における歴史と解釈学 (特集「日本哲学のパースペクティブ」)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際哲学研究	6. 最初と最後の頁 55-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三重野清顕	4. 巻 -
2. 論文標題 出来事と歴史の生成をめぐる試論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『見えない世界を可視化する「哲学地図」 《ポスト真実》時代を読み解く10章』	6. 最初と最後の頁 42-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三重野清顕	4. 巻 55
2. 論文標題 自己認識と自己変容 人間の変容の可能性をめぐる試論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 白山哲学	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三重野清顕	4. 巻 26
2. 論文標題 カテゴリーとは何であるか、いかにして導出されるのか カテゴリー論としてのヘーゲル論理学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ヘーゲル哲学研究	6. 最初と最後の頁 73-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片岡一竹	4. 巻 3
2. 論文標題 道徳の起源についてフロイトは何を語ったか 超自我における欲動、対象、寄る辺なさ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 哲学の門：大学院生研究論集	6. 最初と最後の頁 56-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片岡一竹	4. 巻 11
2. 論文標題 マゾヒズムの誘惑 ジャン・ラブランシュと共に読むフロイト	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 表象・メディア研究	6. 最初と最後の頁 105-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片岡一竹	4. 巻 9
2. 論文標題 フロイト「欲動と欲動運命」を読む	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 In-vention	6. 最初と最後の頁 72-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川歩人	4. 巻 24
2. 論文標題 デリダ『幾何学の起源』「序説」における「文学的对象の理念性」の在処	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 フランス哲学・思想研究	6. 最初と最後の頁 107-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池松辰男	4. 巻 27
2. 論文標題 ヘーゲルの「良心」概念における「内面」の意味とその射程	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 倫理学紀要	6. 最初と最後の頁 75 - 101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片岡一竹	4. 巻 第65輯
2. 論文標題 初期フロイトの性理論 (1893-1900年)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 早稲田大学大学院文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 655-670
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計39件（うち招待講演 13件 / うち国際学会 8件）

1. 発表者名 野尻英一
2. 発表標題 哲学はいかに精神分析を必要とするか？
3. 学会等名 「精神分析と哲学の悩ましい関係」パネルディスカッション（東京精神分析サークル / 大阪大学未来共創センター・哲学の実験オープンラボ / 早稲田大学大学院文学研究科表象・メディア論コース）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 野尻英一
2. 発表標題 ポストン理論の要点紹介 & 国民国家の終了 / 再起動と地獄の機械
3. 学会等名 ポストン『時間・労働・支配』増刷記念シンポジウム：新しい資本主義の彼方へ
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 野尻英一
2. 発表標題 ヘーゲルの音声的構想力
3. 学会等名 令和三年度京都ヘーゲル讀書會冬期研究例會
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中村徳仁
2. 発表標題 正統と革命のはざまに立つシェリング 20世紀後半のドイツ語圏における政治思想的解釈史
3. 学会等名 日本シェリング協会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山崎雅広
2. 発表標題 レーヴィットを読み、乗り換えようとするクロソウスキー 《神トイウ悪循環》なる演技空間の原理とその実現
3. 学会等名 表象文化論学会第15回研究発表集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 飯泉佑介
2. 発表標題 「哲学の欲求」からその充足へ：ラインホルトとシェリングの間の『差異論文』
3. 学会等名 日本シェリング協会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yusuke IIZUMI
2. 発表標題 Beings, Concepts, or Something Else?: On the Subject of Hegel's Logic as Metaphysics
3. 学会等名 The 5th Conference of China-Japan Forum of Philosophy: Hegel and Marx (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉松寛
2. 発表標題 可傷的なものと可塑性 マラブーのメルロ=ポンティ読解から
3. 学会等名 日本メルロ=ポンティ・サークル
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 辰巳一輝
2. 発表標題 隠喩としての自閉症 構想力の 盗用 をめぐる試論
3. 学会等名 精神分析と哲学の悩ましい関係」ワークショップ」(主催：東京精神分析サークル/大阪大学未来共創センター哲学の実験オープンラボ/早稲田大学大学院文学研究科表象・メディア論コース)(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 池松辰男
2. 発表標題 解体のあとに来るもの：ヘーゲルによるGewissenの解釈とその意味
3. 学会等名 第10回「構想力と精神病理学」研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三重野清顕
2. 発表標題 過去の音楽に取り組むということ」(主題別討議「音楽と倫理」)
3. 学会等名 日本倫理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三重野清顕
2. 発表標題 「哲学史研究はどのようなものであるべきか ヘーゲルの哲学史論から学ぶもの」
3. 学会等名 日本ヘーゲル学会第32回大会ヘーゲル生誕250年記念シンポジウム「ヘーゲルと哲学史」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 安藤 歴
2. 発表標題 政治を思考する上でなぜ「芸術」が問題とされうるのか?: ジャン=リュック・ナンシーの文学的共産主義によせて
3. 学会等名 社会芸術学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 REKI ANDO
2. 発表標題 The Critique of Marxism in the 1970s in Japan
3. 学会等名 The eighth international conference “Japan: Pre-modern, Modern, and Contemporary: A Return Trip from the East to the West. Learning in, about and from Japan (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 REKI ANDO
2. 発表標題 The Anti-Marxist Moment in the 1980s Japanese Left.
3. 学会等名 ENOJP 5th Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 眞田 航
2. 発表標題 歴史的現在と行為の直観 後期西田幾多郎の歴史論について
3. 学会等名 西田哲学会第19回年次大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 眞田航
2. 発表標題 西田幾多郎は近代を超越したか？ 「文明論的転移」の攪乱に向けた試論
3. 学会等名 日本思想史研究会12月10日例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 眞田航
2. 発表標題 弁証法的モノドロジーと無数なる種 後期西田哲学における「種」概念の限界と可能性をめぐって
3. 学会等名 大阪大学2021年度グローバル日本学研究拠点「拠点形成プロジェクト」 京都学派およびポスト京都学派における科学哲学および技術哲学研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 SANADA Wataru
2. 発表標題 What Enables History to Move: A Reading of Nishida Kitaro 's Later Works
3. 学会等名 6th Annual Conference of the European Network of Japanese Philosophy (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 眞田航
2. 発表標題 小林秀雄の「批評」の可能性を拓く Otobe Nobutaka Stupidity in Politics: Its Unavoidability and Potentialに寄せ
3. 学会等名 合評会：Otobe Nobutaka “ Stupidity in Politics: Its Unavoidability and Potential ” (Routledge/2021) (哲学の実験オープンラボ (大阪大学未来共創センター) 主催)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中村徳仁
2. 発表標題 シェリングと後期ロマン派
3. 学会等名 第8回「構想力と精神病理学」研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 片岡一竹
2. 発表標題 二〇世紀フランスのヘーゲル哲学とラカン
3. 学会等名 第8回「構想力と精神病理学」研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小川歩人
2. 発表標題 デリダの観点からヘーゲル記号学/構想力の再検討
3. 学会等名 第9回「構想力と精神病理学」研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 辰巳一輝
2. 発表標題 現代障害学における ASD の哲学的再検討：構想力、共感性との関連で
3. 学会等名 第9回「構想力と精神病理学」研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋一行
2. 発表標題 ヘーゲル所有論は無限判断論に基づき、そこから社会が構想される
3. 学会等名 第10回「構想力と精神病理学」研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池松辰男
2. 発表標題 解体のあとに来るもの ヘーゲルによる Gewissen の解釈とその意味
3. 学会等名 第10回「構想力と精神病理学」研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 片倉悠輔
2. 発表標題 民衆の構想力 アナーキズムとフロイトの群衆論をめぐり
3. 学会等名 第11回「構想力と精神病理学」研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 片岡一竹
2. 発表標題 『饗宴』における三人のソクラテス ラカンの反哲学の一例として
3. 学会等名 「精神分析と哲学の悩ましい関係」パネルディスカッション（東京精神分析サークル/大阪大学未来共創センター・哲学の実験オープンラボ/早稲田大学大学院文学研究科表象・メディア論コース）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 辰巳一輝（大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程）「隠喩としての自閉症 テーター	構想力の 盗用 をめぐる試論」、指定コメン
2. 発表標題 隠喩としての自閉症	構想力の 盗用 をめぐる試論
3. 学会等名 「精神分析と哲学の悩ましい関係」パネルディスカッション（東京精神分析サークル／大阪大学未来共創センター・哲学の実験オープン ラボ／早稲田大学大学院文学研究科表象・メディア論コース）（招待講演）	
4. 発表年 2022年	

1. 発表者名 野尻英一	
2. 発表標題 発達障害当事者会博（ハッタツエキスポ）パネルディスカッション	
3. 学会等名 発達障害当事者会博（招待講演）	
4. 発表年 2020年	

1. 発表者名 野尻英一	
2. 発表標題 哲学的心理学からアプローチする和解学：記憶・共感・文明論的転移の「場」へ向けて	
3. 学会等名 国際和解学会ワークショップ：東アジアにおける和解学の展開（招待講演）（国際学会）	
4. 発表年 2021年	

1. 発表者名 飯泉佑介	
2. 発表標題 『精神現象学』の「現象」性格：ヘーゲル哲学を通じたガブリエル新實在論の理論的・実践的射程の検討	
3. 学会等名 唯物論研究協会第43回研究大会 第2分科会「ヘーゲルと現代思想」	
4. 発表年 2020年	

1. 発表者名 Yusuke IIZUMI
2. 発表標題 Hegel's Phenomenology in 1807 and its position in the Encyclopedia-system: from the perspective of historical Genesis of Hegelian Science
3. 学会等名 HOSEI UNIVERSITY; DEPARTMENT OF PHILOSOPHY Seminar for Graduate Students: FROM CLASSICAL GERMAN PHILOSOPHY TO JAPANESE CONTEMPORARY THINKING (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 REKI ANDO
2. 発表標題 Les ruines du Marxisme: Sa problematique au Japon dans les annees 1980
3. 学会等名 PASSAGES PHILOSOPHIQUES V Online Symposium on Contemporary Philosophy in France and Japan (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 片岡一竹
2. 発表標題 精神分析から見た善悪の起源
3. 学会等名 共生のための国際哲学研究センターシンポジウム「哲学と精神分析 デリダ、リクール、ラカン、そしてフロイト」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山崎雅広
2. 発表標題 鏡の中の子ども ラカンにおける鏡像段階論への前進
3. 学会等名 第8回東京精神分析サークルコロク
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ayuto Ogawa
2. 発表標題 Derrida's Interpretation of Kantian "Aesthetics" in 1970's--Sublime and Narrative Voice
3. 学会等名 Passages philosophiques Philosophie contemporaine au Japon et en France (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 池松辰男
2. 発表標題 意識の構造とその背後 現代実在論の課題とヘーゲル主観的精神の哲学 / 客観的精神の哲学の射程
3. 学会等名 シンポジウム「ドイツ観念論と現代実在論 理性と意識の背後をめぐって」日本ヘーゲル学会第29回研究大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 片岡一竹
2. 発表標題 誰も女を教えてくれない 症例ドロー再読
3. 学会等名 第8回東京精神分析サークル主催コロック
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 鹿野 祐嗣、廣瀬 純、堀千晶、山崎雅広	4. 発行年 2022年
2. 出版社 以文社	5. 総ページ数 424
3. 書名 ドゥルーズと革命の思想	

1. 著者名 ポール・ボゴシアン、飯泉 佑介、斎藤 幸平、山名 諒、マルクス・ガブリエル	4. 発行年 2021年
2. 出版社 堀之内出版	5. 総ページ数 256
3. 書名 知への恐れ	

1. 著者名 マルタン・ジュベール、佐藤 愛、吉松 覚	4. 発行年 2021年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 206
3. 書名 自閉症者たちは何を考えているのか？	

1. 著者名 エッカート・フェルスター、三重野 清顕、佐々木 雄大、池松 辰男、岡崎 秀二郎、岩田 健佑	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 654
3. 書名 哲学の25年	

1. 著者名 東洋大学福祉社会開発研究センター	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 352
3. 書名 認め合い、支え合う 福祉社会の近未来	

1. 著者名 河本 英夫、三重野 清顕	4. 発行年 2022年
2. 出版社 学芸みらい社	5. 総ページ数 272
3. 書名 創発と危機のデッサン（内第四章「哲学にとって未来とは何か 徴候の解釈学の可能性をめぐって」担当）	

1. 著者名 高橋 一行	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 カントとヘーゲルは思弁的实在論にどう答えるか	

1. 著者名 吉松覚	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 273
3. 書名 生の力を別の仕方でも思考すること ジャック・デリダにおける生死の問題	

1. 著者名 西山雄二・星野太・吉松覚（共訳）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 月曜社	5. 総ページ数 376
3. 書名 カトリーヌ・マラブー『真ん中の部屋 ヘーゲルから脳科学まで』	

1. 著者名 野尻 英一、高瀬 堅吉、松本 卓也	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 392
3. 書名 自閉症学 のすすめ	

1. 著者名 ジュディス・バトラー、大河内 泰樹、岡崎 佑香、岡崎 龍、野尻 英一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 堀之内出版	5. 総ページ数 492
3. 書名 欲望の主体	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>大阪大学人間科学部附属未来共創センター・哲学の実験オープンラボ https://exphopenlabo.hus.osaka-u.ac.jp 大阪大学人間科学研究科 / 人間科学部比較文明学研究室 # 研究プロジェクト http://csc.hus.osaka-u.ac.jp/projects.html 自閉症学超会議！ http://csc.hus.osaka-u.ac.jp/jiheishougaku-chou-kaigi/</p>

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	三重野 清顕 (MIENO Kiyooki) (70714533)	東洋大学・文学部・教授 (32663)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	小川 歩人 (OGAWA Ayuto)	大阪大学・国際共創大学院学位プログラム推進機構・特任講師 (14401)	
研究協力者	辰己 一輝 (TATSUMI Ikki)	大阪大学・大学院人間科学研究科博士後期課程 (14401)	
研究協力者	片倉 悠輔 (KATAKURA Yusuke)	大阪大学・大学院人間科学研究科博士前期過程 (14401)	
研究協力者	池松 辰男 (IKEMATSU Tatsuo) (10804411)	島根大学・教育学部・講師 (15201)	
研究協力者	高橋 一行 (TAKAHASHI Kazuyuki)	明治大学・政治経済学部・教授 (32682)	
研究協力者	吉田 尚史 (YOSHIDA Naofumi) (10408833)	早稲田大学・人間総合研究センター・招聘研究員 (32689)	
研究協力者	吉松 寛 (YOSHIMATSU Satoru) (60938520)	帝京大学・外国語学部・講師 (32643)	
研究協力者	佐藤 愛 (SATO Ai) (00779556)	立命館大学・言語教育センター・外国語嘱託講師 (34315)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	飯泉 佑介 (IIZUMI Yusuke)	独立行政法人日本学術振興会・京都大学・特別研究員PD	
研究協力者	岡崎 龍 (OKAZAKI Ryu)	イエナ大学・神学部・日本学術振興会海外特別研究員	
研究協力者	中村徳仁 (NAKAMURA Norihito)	京都大学・大学院人間・環境学研究科・博士後期課程 (14301)	
研究協力者	安藤 歴 (ANDO Reki)	大阪大学・大学院人間科学研究科博士後期課程 (14401)	
研究協力者	片岡 一竹 (KATAOKA Ichitake)	早稲田大学・大学院文学研究科表象・メディア論コース・博士後期課程 (32689)	
研究協力者	客本 敦成 (KYAKUMOTO Atsunari)	大阪大学・大学院人間科学研究科博士後期課程 (14401)	
研究協力者	ドリンシエク サシヨ (Dolinsek Saso)	大阪大学・大学院人間科学研究科博士後期課程 (14401)	
研究協力者	真田 航 (SANADA Wataru)	大阪大学・大学院人間科学研究科博士後期課程 (14401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	丸山 由晴 (MARUYAMA Yoshiharu)	大阪大学・大学院人間科学研究科博士後期課程 (14401)	
研究協力者	畑 陽一郎 (HATA YOICHIRO)	株式会社ミネルヴァ書房・営業部	
研究協力者	山崎 雅広 (YAMAZAKI Masahiro)	日本学術振興会・京都大学・特別研究員PD (14301)	
研究協力者	原 和之 (HARA Kazuyuki) (00293118)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601)	
研究協力者	高瀬 堅吉 (TAKASE Kenkichi) (80381474)	中央大学・文学部人文社会学科心理学専攻 / 大学院文学研究科心理学専攻・教授 (32641)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 パネルディスカッション「竹内好のアジア主義と現代 転移関係を越えて」	開催年 2022年～2022年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
米国	University of Wisconsin-Madison	Cornell University	